生涯学習課

飯山市埋蔵文化財調査報告　第57集

（旧 針尾池遺跡）

針湖池遺跡

インフォメーションセンター建設に伴う確認調査報告 ——

1998・3・10

長野県飯山市教育委員会

例　言

1　本書は、飯山市大字旭字長峰ほかに所在する針湖池遺跡の確認調査報告書である。

2　本調査は、飯山市（総務部企画課担当）が計画したインフォメーションセンター建設に伴う確認調査であり、飯山市教育委員会が実施した。

3　針湖池遺跡は、針尾池遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地として登録されているが針尾池はその後針湖池と名称が変わったため、混乱を避けるために今後針湖池遺跡とする。

4　調査にかかる組織は以下のとおりである。

教　育　長　岩崎　　彌

教育次長　井出　澄夫

生涯学習課長　平野　英孝

社会教育係長　山室　茂孝

調査指導　高橋　　桂　　調査担当　望月　静雄

作業参加者　土屋久栄、高橋　武、植中高見、岸田しづ子、宮本鈴子

（整理作業）　藤沢和枝、小林美里、望月洋子

総務部企画課担当　岩崎　　敏

5　本書は飯山市教育委員会事務局が取り纏めた。

1　針湖池遺跡の概要

1　遺跡の位置と範囲

針湖池遺跡は、昭和29年刊行の下高井において針尾池の東西に遺跡地として分布図に登載されており、古くから認識されていた遺跡である。その後、昭和40年代の飯山北等学校地歴部の分布調査によりより詳細に遺跡の範囲が把握された。それによれば、池周辺におよそ三地点（Ａ～Ｃ）に分布が認められ、Ａ地点は池南岸、Ｂ地点は西北岸、Ｃ地点は北東側の小丘となっている。最も濃密に分布する地点はＣ地点であり、縄文時代草創期・早期、弥生時代中期・後期、平安時代にわたって遺物が確認されている。なお、湖岸には旧石器時代の石器や縄文時代前期の遺物も確認されている。

図１　遺跡の位置（１：25000）

2　調査の概要

飯山市が計画した長峰運動公園内のインフォメーションセンター建設は、冬季国体に向けての施設建設であり、多目的グラウンドの建設も予定されている。湖岸東側一体はアスパラガス・長芋などの優良農地となっている。遺跡は、当該地区については範囲外となる可能性があったが、湖岸のおける遺跡範囲が不明確でさらに広大な面積が工事対象地域となり、事前に確認調査を実施して遺跡の有無を明確にする必要が生じた。ただし、多目的グラウンド建設地は用地買収中であり、平成10年度に確認調査を行うこととなった。そのため、平成９年度においてはインフォメーションセンター建設地のみ確認調査を行うこととした。

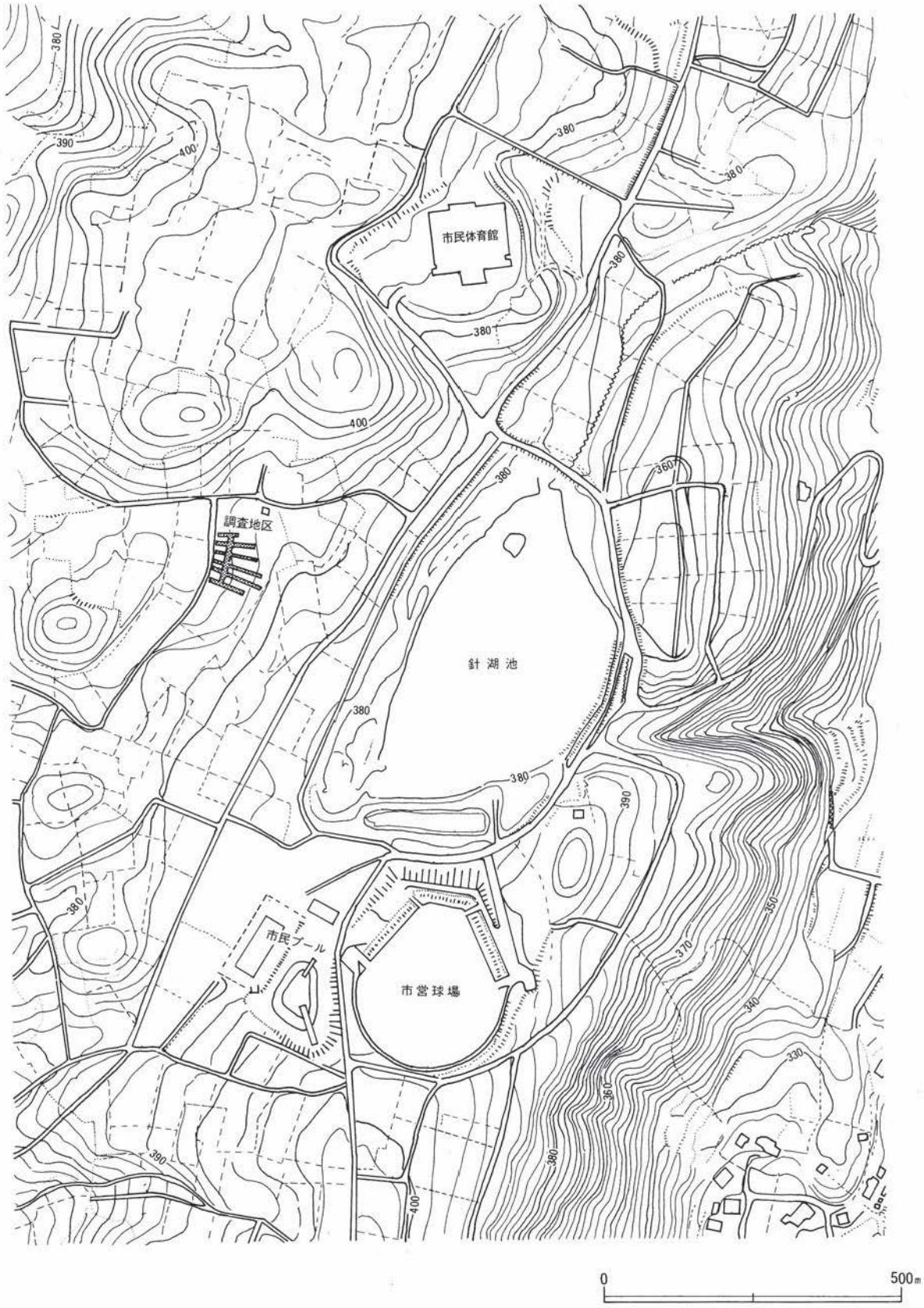

図２　調査周辺の地形（１：10000）

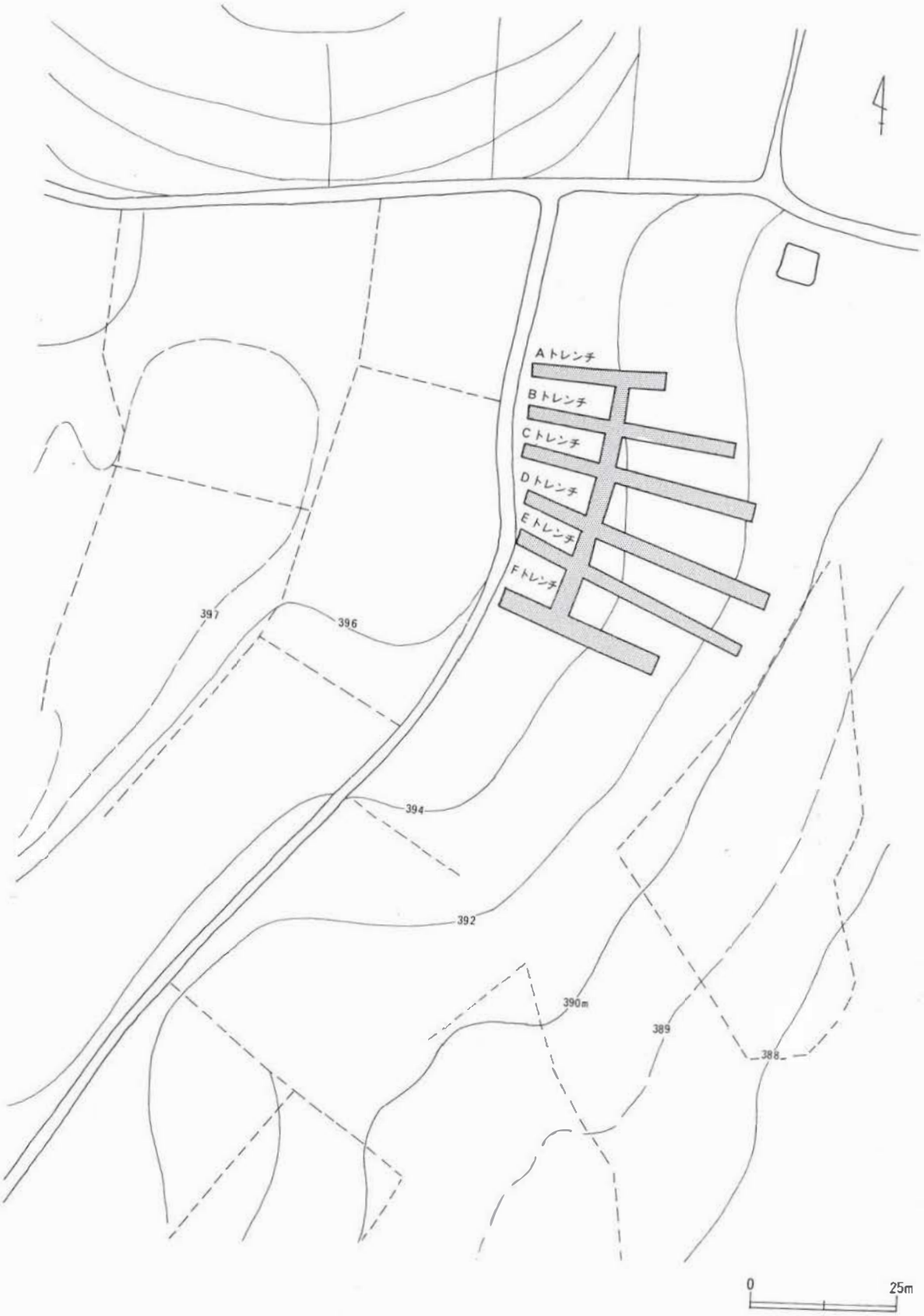

図3　調査地全体図（1：1000）

Ⅱ 調 査

1 調 査

調査は、あらかじめ担当の企画課と建設範囲を現地で確認し、バックホーにより確認することとした。表土および黒色土は、標高の高いところで約20cm、深いところでは１ｍあった。現状はアスパラガスの畑であったが、かつて長芋栽培が行われていたらしく、幅約15cmのトレンチャーが50cmおきに深耕されており、対象地の大半が破壊されていた。かろうじて残されている地区においても明確な遺構は確認されなかったため、おそろく遺跡の範囲外と考えてさしつかえないと思われる。

2 出土遺物

調査区内で発見された遺物は、古銭と硯破片である（図４）。

古銭は「文久永宝」で、初鋳年が1863年であり、幕末期の鋳造である。背には波がある。径が27mm。

硯は方形硯で、破損している。時期的な判断はできないが近世ないしは明治期のものではないかと思われる。

以上二点のみの出土であり、針湖池遺跡として確認されていた旧石器時代や縄文時代、弥生・平安時代にかかわる遺物は確認されなかった。このことから、当該地区は針湖池遺跡の範囲外もしくは空白地帯であると判断される。

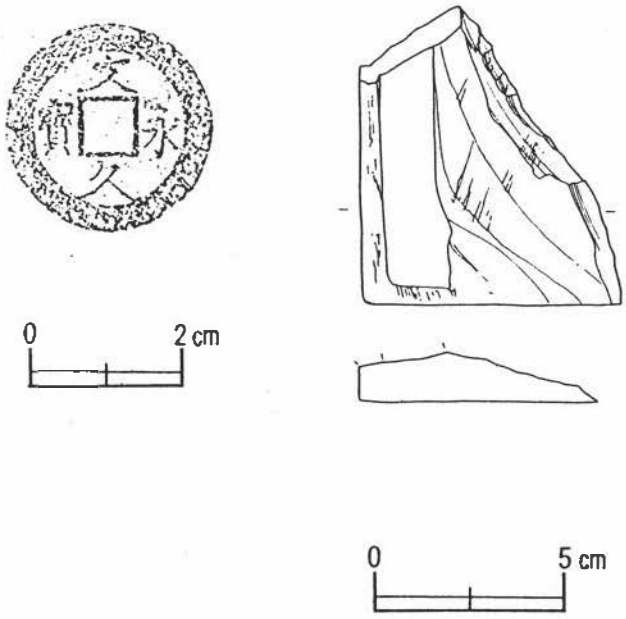

図4 出 土 遺 物

なお、近世はあるいは近代に推定される遺物二点は、外部より畑作肥料に混じって搬入されたとも考えられるが、近世においては長峰街道沿いに位置することから、そうした街道沿いに民家等が存在していたことも推定される。

いずれにしても、今後多目的グラウンド建設に際し、当該調査区の南側一体を確認調査する予定であるので、その結果によりより明確になるものと考えられる。

調　査　区（帯状の部分がトレンチャーによる破壊箇所）

飯山市埋蔵文化財調査報告　第57集

針湖池遺跡

平成10年3月10日発行

編集・発行　長野県飯山市教育委員会

長野県飯山市大字飯山1,110－1

印　　刷　㈲足立印刷所